

カトリック高松教区（大船渡プロジェクト） 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター（1）

発行人 高松教区サポートセンター 2011年12月7日発行
編集 谷口広海
寄付 郵便振り込み：カトリック高松司教区
01650-7-13208
(お振込の際はTSCへの寄付の意向を必ずご記入ください)
tel:090-9577-4131 Email:tk-koho@mxi.netwave.or.jp

3月11日の大震災と大津波、そして原発の被災事故から9ヶ月が経ち、今年も終わろうとしています。被災地はこれから最も厳しい冬の寒さを凌がなければなりません。しかし、中には被災状況によっては自治体からの経済的援助も無い方々や、地理的に買い物や病院に行くにも困難な状態に置かれているお年寄りや、障害をもった方々も居られます。

そして、この大震災でさえも全国紙の新聞などから取り上げられる頻度も減少し、話題からも後退してきています。こうした中、現地でボランティア活動に当たっておられる方や被災者の方々も、この先の援助の減少に心を痛めておられるのが現状のようです。

大阪教会管区大船渡プロジェクト現況

「地ノ森いこいの家」〔この名称は工事着工の土地祝福に際して、現地の信徒会長（山浦氏・気仙語聖書翻訳者）からの提案（これは土地の歴史からの謂われだそうです）で、「地ノ森いこいの家」に決定した。〕の完成が間近に迫っています。この大船渡ベースは大阪教会管区が宮城県地域一帯の救援・復興活動拠点（新しい創造）として設置しているものです。

また、外国籍信徒（主にフィリピン人）司牧とも緊密に連携するため、「地ノ森いこいの家」に隣接するマンション（3階建6棟のうち1階2棟）を借り受け、1棟は外国籍信徒司牧支援に当たる2名の司祭〔ギャリー神父（広島教区）、ハルノコ神父（大阪教区）〕の住まいとし、もう1棟は、やはり外国籍信徒司牧支援に当たる2名の聖心侍女会シスター（Sr.野上・Sr.西川）のための修道院としています。大船渡教会には京都教区から司牧支援に当たる森田神父が着任し、「地ノ森いこいの家」には内陸部にある築館教会に大阪教区から司牧支援のため派遣されている池田神父も当分の間入り、「地の森いこいの家」は東北における一大支援拠点となっています。



カリタスジャパン大船渡ベース（地ノ森いこいの家）の工事状況は順調で2011年11月21日（月）に予定より早く上棟式を行う事が出来ました。大工さんたちは予定通り12月のクリスマス前に完成させる為に残業してでも完成させると言っています。



大船渡教会には主日になると十数人の日本人信徒のほかフィリピン国籍の信徒が多数集まってきました。彼らの司牧を担当する司祭が2人いますから、とても心強いでしょうね。

ベース事務局長 野田和馬氏・Sr.野上・Fr.ハルノコの弦き(1)

- 12/10オープン予定の「地ノ森八軒街」（支援している近くの再開予定店舗）の代表が挨拶に来られ、お互い協力し合って地ノ森近郊の復興を目指します。
- 11/16は水曜日、なんと歴史的な一日となりました。え！？歴史的？はい、歴史的な出来事です。毎日の出来事が歴史的な出来事なんですけど、ベースにとっては特記すべき日でした。「地ノ森仮設住宅」での「買物送迎」の初日だったんです。お祈りくださいましたか？(^o^) 喜ばれての『買物送迎』スタートを切りました。
- 買い物に行かれた方は7人で、始めてからの平均は9人です。神田神父さんから8人乗りの乗用車を準備出来そうだと聞きました。
- 明日は9:30の大船渡教会のミサを受けて後、昼から地ノ森仮設住宅の方の買い物支援（移手段の支援）をして来ます。軌道に乗れば他の仮設住宅でも買い物支援や通院支援も出来るのではと考えています。



大船渡ベース玄関前で
センター長 Fr.池田 大塚司教

今日、幼稚園と教会のバザー、私たちが手伝いに行きました。野外の10円ショップで売り子しながら、昨日顔を見ていた仮設の人たちの顔も見え、気さくに何気ない話を楽しむこともできました。顔を合わせる機会をできるだけ多く持つことによって、すこしづつお近づきになれたらと思っています。

- 今日は、幼稚園と教会のバザー、私たちが手伝いに行きました。野外の10円ショップで売り子しながら、昨日顔を見ていた仮設の人たちの顔も見え、気さくに何気ない話を楽しむこともできました。顔を合わせる機会をできるだけ多く持つことによって、すこしづつお近づきになれたらと思っています。
- ハルノコ神父は大船渡ベースの外国人支援センターに入ってから十日が

「さぬきうどん振る舞い隊」 11/8~9 大船渡と釜石で活動

昨日、鎌倉と東京から来てくれたシスターと一緒に「地ノ森仮設住宅」に「讃岐うどん」チラシを一軒一軒配りました。

顔を合わせて、お配りすることにより、顔見知りになり、また、集まって話しているおばあちゃんたちとは「お友達になってください」とお話ししてきました。

11月5日

今晚、東京の卒業生から電話をもらいました。8日にうどん隊の讃岐うどんふるまいについてシスターから聞かれたとのこと。ご縁戚が赤崎（大船渡市）で被災されていることもあり、是非一度大船渡に来たかったとのこと。修道会が拠点をつくったということで訪ねてくださり、出来れば讃岐うどんふるまい手伝いをしてくださることになりました。お二人来てくださいます。宿泊は修道院でお受けします。



前日のスタッフミーティング風景

11月8日

いよいよ「讃岐うどん隊」の到着。お昼頃には、東京から「讃岐うどん振る舞い隊」のボランティアとしてお二人来てくださり、夕方から、「うどん」のトッピングの準備に入りました。おネギ、かまぼこ切りと、夢の『うどん』の準備をしました。夕食後、本隊の方と明日の「うどん振る舞い」の打ち合わせをしました。次の朝、みんな一緒にミサに預かり、いざ出陣「讃岐うどん」！



指田さん(東京) Sr.野上
Sr.田口 酒井さん(東京)

かなり心配しながら現場に。しかし、見事なチームワーク！！一からの手作りで本当においしい「うどん」でした。仮設にお住まいの方々は美味しく、お替わりしてくださった方もありました。

風邪気味な方、ゆっくり家で召し上がりたい方、出て来れない方にご近所のかたが、積極的におうどんを運んで皆さんに召し上がっていただけました。お隣近所がそれぞれ心配りをされていることに、自治会長さんが話しておられたこと、お互いが心配りをしながら絆を深め支えあい自立して行く地道な歩みを感じられました。

—聖心侍女階 Sr.野上の報告から—



いわきうどん隊 11/26~29 大盛況のうちに

去る2011年11月27日福島県いわき市にて、うどん炊き出しをしました。総勢10名、高松からマイクロバスで出かけました。当日は良いお天気で温かく、うどん炊き出しのイベントとして周知して頂いていたので、近隣の仮設住宅の方が多く来場して下さいました。氏家和仁神父様（元高松教区協力司祭）他、関わりのある教会の方々とさいたまSCの方々のご協力で大成功でした。



2時間の準備を経て、うどん提供を開始した時には眼前には長蛇の列がありました。約550食を提供することが出来ました。訪れた方々は本当に喜ばれ、中には「来てもらえるだけで嬉しい」と涙を浮かべておられる方もいました。これからも祈りのうちに被災地に思いを寄せていきたいと思っています。

TSC トピックス

- 「お米券」を贈りましょう全教区キャンペーン（2011年12月～）
大船渡ベースの仮設住宅訪問活動の中でお米を持参したい”との要望がありました。被災者の方々が非常に喜ばれるようで、つながり作りの助けにもなります。そこでTSCとして、本物のクリスマスのスピリットを生かそうと、「お米券」という形で皆様の善意を募りたいと考えています。「お米券」とそれに代わる献金は各小教区、各地区TSC窓口、または直接教区TSCまでお寄せ下さい。
- 12月13日 長崎教会管区の大槌ベースキャンプ落成予定

大船渡「地の森いこいの家」での支援活動の一端を皆様にご紹介いたしました。このベースにも間もなく男女ボランティア合わせて24人収容の宿泊施設も完成いたします。現地からのニーズは以前からありましたが、受け入れ態勢も整いつつあります。新年からTSCもボランティアの派遣に取り組むこととなります。皆様の応募を期待しています。それではよいお正月をお迎え下さい。